

60分でわかる旧約聖書(40) 「中間時代」

1. はじめに

(1) 中間時代とは

- ①英語で「intertestamental period」という。
- ②マラキ書が完成してからキリストが登場するまでの期間を指す。
- ③預言者マラキの時代から、バプテスマのヨハネの登場までの期間

*マラ3:1

Mal 3:1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。／彼はわたしの前に道を整える。／あなたがたが尋ね求めている主が、／突然、その神殿に来る。／あなたがたが望んでいる契約の使者が、／見よ、来ている」と万軍の【主】は仰せられる。

- ④「400年の沈黙の期間」とも言う。
- ⑤この期間に、イスラエルの政治的、宗教的、社会的状況は激変した。

(2) 新しい啓示は与えられなかったが、神が休憩していたということではない。

- ①この期間は、新しい啓示を必要としない時代である。
- ②神は、契約の民イスラエルを忘れてはおられなかった。
- ③神は、ご自身の計画を進めておられた。
- ④中間時代は、メシア登場の舞台が整う時代である。

2. アウトライン

- I. 政治的状況の変化
- II. 宗教的状況の変化
- III. 社会的状況の変化

中間時代について学ぶ。

I. 政治的状況の変化

はじめに：政治的状況は、ダニ2:31~35の預言通りに進んだ。

Dan 2:31 王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。

Dan 2:32 その像は、頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、

Dan 2:33 すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。

Dan 2:34 あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。

Dan 2:35 そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金もみな共に砕けて、夏の麦打ち場のもみがらのようになり、風がそれを吹き払って、あとかたもなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました。

- (1) 王は、夢で一つの大きな像の幻を見た(異邦人の4大帝国の興亡)。
- (2) ダニエルによる解き明かし
 - ①頭は純金(バビロン帝国)。
 - ②胸と両腕は銀(メド・ペルシヤ連合帝国)。
 - ③腹とももは青銅(アレクサンドロス大王のギリシヤ帝国)。
 - ④すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土(第4の帝国-帝国主義)。
 - ⑤一つの石が人手によらずに切り出され、像の鉄と粘土の足を打ち砕いた。
 - *その像を打った石は、大きな山となって全土に満ちた。
 - *この山は、メシア的王国(千年王国)を象徴している。

1. 頭は純金(バビロン帝国)

- (1) バビロンは、メド・ペルシヤ連合帝国によって滅ぼされた(前539年)

2. 胸と両腕は銀(メド・ペルシヤ連合帝国)

- (1) イスラエルの民は、ペルシヤ帝国の支配下に置かれた(前532~332年)。
 - ①ペルシヤ帝国は、ユダヤ人が自分の宗教を維持することを許した。
 - ②ペルシヤの王クロスは、エルサレムの神殿の再建を許可した。
 - ③この時期は、ユダヤ人にとっては比較的平和な時代であった。
 - ④旧約時代の最後の100年から中間時代の最初の100年にかけての合計200年。

3. 腹とももは青銅(アレクサンドロス大王のギリシヤ帝国)

- (1) アレクサンドロス大王がペルシヤのダリヨスを破った(前331年)。
 - ①マケドニア帝国が世界の覇権国となる。
 - ②彼はギリシア文明の庇護者であった。
 - *アリストテレスの弟子
 - *ギリシア哲学や政治学を学んだ。
 - *征服した地に、ギリシア文明を紹介した。
 - ③ギリシア文明は、ユダヤ人に悪影響をもたらした。
 - *世俗的
 - *人間中心
 - *偶像礼拝

- (2) アレクサンドロスの死後、帝国は3分割された。

- ①マケドニアのアンティゴノス朝
- ②エジプトのプトレマイオス朝
- ③シリアのセレウコス朝

- (3) セレウコス朝の王アンティオコス・エピファネスが神殿を冒瀆した。
 - ①神殿に豚を捧げ、異教の祭壇を築いた(前167年頃)。
 - ②ユダヤ人の抵抗運動であるマカベア戦争が起こった(前166～前142年)。
 - ③この戦争の結果、ユダヤ人の自治がしばらく続いた(ハスモン朝)。

4. すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土(第4の帝国 - 帝国主義)

- (1) ローマのポンペイウスがイスラエルを征服した(前63年)。
 - ①ヘロデは、ローマ帝国によってユダヤの王に任命された。
 - ②ユダヤ人たちは、ローマの圧政と重税に苦しめられた。
- (2) ユダヤでは、ギリシア・ローマ文明とヘブル文明が混在するようになった。

II. 宗教的状況の変化

1. サドカイ派

- (1) サドカイ派は、祭司たちと貴族階級の者たちから成っていた。
 - ①政治的には、親ローマである。一般大衆の支持はなかった。
 - ②神学的には、モーセの五書しか神のことばとして認めていなかった。
 - ③パリサイ派の口伝律法に強く反発した。
 - ④天使や悪霊の存在を否定した。
 - ⑤魂の永遠性を否定し、肉体の復活も否定した。

2. パリサイ派

- (1) パリサイ派は、ヘブル語「パラシム」で、ギリシア語で「ファリサイオス」。
 - ①「分離した」という意味。
 - ②ユダヤ教の種々のグループの中で、文化的には最も保守的である。
 - *特に、ヘレニズム化には抵抗した。
 - ③教理的には、イエスと弟子たちは、サドカイ派よりもパリサイ派に近かった。
 - *死者の復活を信じていた。
 - *永遠の報奨と永遠の裁きを信じていた。
 - *天使や悪霊の存在を信じていた。
 - *神の主権と人間の責務をバランス良く理解していた。

*律法、預言者、諸書の全体を神の啓示と信じていた。

*律法の遵守に熱心。律法の周りに垣根を立てた(口伝律法)。

- ④この時代、民衆にとっては、ユダヤ教と言えばパリサイ的ユダヤ教であった。
- ⑤パリサイ人の中には、イエスを支持する人とイエスに敵対する人がいた。
- ⑥教会が誕生した直後は、パリサイ派は教会に対して中立的な立場を取った。
- ⑦使8章になって、パリサイ人のサウロが教会を迫害するようになる。

3. ギリシア語訳聖書

(1) ヘブル語を話さないユダヤ人の増加。ギリシア語訳聖書が必要になった。

- ①七十人訳聖書が誕生した。
- ②新約の記者が旧約聖書から引用する場合は、ほとんどが七十人訳聖書。
- ③新約聖書はギリシア語で書かれている。

Ⅲ. 社会的状況の変化

1. ユダヤ人たちの霊的渴望

(1) ユダヤ人たちは、絶望していた。

- ①バビロンからの帰還、ペルシヤ、ギリシアによる支配
- ②マカベア戦争による自治の回復
- ③ローマによる支配

(2) 信仰はなきに等しかった。

- ①メシアの到来しか、この問題を解決することができない。
- ②メシア待望の高まり

2. 異邦人たちの宗教への失望

(1) 多神教への疑問

- ①道徳的退廃
- ②ギリシア神話からユダヤ人の聖書へ
- ③聖書は、ギリシア語で読めるようになっていた。

3. その他の変化

(1) ローマによる平和

- ①安全な旅行が可能になった。

(2) ローマによる道路建設

- ①移動が容易になった。
- (3) ギリシア語が共通語になった。
 - ①コイネー・グreek
 - ②新約聖書のギリシア語である。
- (4) 会堂が各地に建設された。
 - ①バビロン捕囚の期間に誕生したと思われる。
 - ②神殿崩壊後も、ユダヤ教を維持するための方法として生まれた。
 - ③会堂は、祈りとトーラーの学びのためのコミュニティセンターとなった。
 - ④捕囚からの帰還後、各地にシナゴグが建てられた。
 - ⑤ディアスポラの地に留まったユダヤ人たちも、会堂での活動を続けた。
 - ⑥両者にとって、会堂は神殿での礼拝を補完するものとなった。
 - ⑦紀元1世紀、イスラエルの地には480の会堂があったとされる。
 - ⑧会堂は、その地におけるユダヤ人の生活の中心となった。
 - *イスラエルの地においても、ディアスポラの地においても、そう言える。
 - *コミュニティセンター
 - *礼拝、祈り、説教の場
 - *冠婚葬祭の場
 - *時事問題を論じる場
 - *学校(成人学校、子どものための学校、改宗者のための学校)
 - ⑨会堂は、水辺の近くに建てられた。洗礼槽のための水。
 - ⑩会堂は、パウロの伝道旅行のためのインフラストラクチャーとなった。
 - ⑪ディアスポラの地では、会堂のそばに宿屋が建てられることが多かった。

結論

1. ルカ3:1~2

Luk 3:1 皇帝テベリオスの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、

Luk 3:2 アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。

2. ガラ4:4

Gal 4:4 しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。